

会員選任制度検討分科会（第3回）議事要旨（案）

1. 日 時：令和8年2月18日（水）9：00～10：30
2. 場 所：オンライン開催
3. 出席者：日比谷 潤子委員長、宇山 智彦委員、山田 八千子委員、狩野 光伸委員、山口 香委員、市川 温子委員、北川 尚美委員

4. 議事次第

- (1) 前回議事要旨（案）について
- (2) 分科会の検討事項について

5. 配布資料

- ・資料1 前回議事要旨（案）
- ・資料2－1 候補者選考委員会における会員候補者選考の進め方（イメージ）
- ・資料2－2 日本学術会議会員予定者の候補者の選考方針
- ・資料3 要検討事項について
- ・資料4－1 外国人会員制度に係る論点と各国の例
- ・資料4－2 主要アカデミーにおける外国人会員の状況について
- ・参考資料1 日本学術会議会員選考の流れ

6. 議事概要

（選定助言委員会について）

- ・これまでの会員選考に関わったことがある人、各専門のことが分かる人に入っていただくのが良いのではないか。
- ・ダイバーシティの観点では、ジェンダーバランス、地域バランス、世代バランス等の観点が必要ではないか。

（外国籍の会員について）

- ・2029年10月からの会員選考より、外国籍の方を会員に選考することを可能として検討を進めていくことが良いのではないか。
- ・外国籍の会員の要件としては、日本居住年数等の基準を設けるなど、SPRINGの研究奨励費の支援対象者の制度を参照しながら整理すべきではないか。
- ・第27期における外国籍の方の参画としては、まずは連携会員から考えるのが良いのではないか。
- ・外国で活動している研究者の知見をいただく方策としては、外国人アドバイザー制度を活用するのが良いのではないか。
- ・国籍が違うことで独自のリスクが生じる可能性が考えられるため、（国籍に関わらず、）安全保障や研究インテグリティ等の観点から、リスクマネジメントを行う組織体制が必要になるのではないか。

(2029年10月からの会員選考について)

- 若手アカデミーにおける活動を参考にしてはどうか。
- 学術会議はそもそも何をすところなのかという理念が共有されていないこともあるため、新たに制作予定の「日本学術会議憲章」の趣旨にのっとり活動することを観点に入れてはどうか。
- 日本学術会議がどういうことを行っていくのかが対外的に分かるような観点を盛り込めると、社会の中での位置付けが共有されやすくなるのではないか。
- 会員候補者の推薦にあたっては、分科会への参加等、責任を持って活動することをきちんと説明するようにすべきではないか。

以 上